

胃切除後に発生した吻合部潰瘍穿孔の1例

みず さわ きよ あき すが むら けん じ
 水 澤 清 昭 菅 村 健 二
 お がわ はる あき
 小 川 東 明

キーワード：胃切除後，吻合部潰瘍，穿孔

要 旨

症例は，71歳，男性。41歳時に十二指腸潰瘍穿孔にて当科で胃切除術施行。2012年4月，突然の左側腹部痛を主訴に救急外来を受診した。腹部全体に圧痛や筋性防御や腹膜刺激症状を認めた。血液検査では白血球増多を認めた。血清 gastrin や Ca 値，血中ヘリコバクターピロリ抗体は正常であった。胸部X線検査や腹部CT検査で腹腔内に遊離ガス像が認められた。以上より消化管穿孔による汎発性腹膜炎と診断し，緊急手術を行った。開腹すると，腹腔内に淡血性の腹水を少量認めた。胃切除術後の再建は，Billroth II法（結腸前吻合）＋Braun 吻合であった。胃空腸吻合部近くの空腸前壁に穿孔がみられ，吻合部潰瘍穿孔と診断した。穿孔部の単純閉鎖術ならびに大網被覆術，ドレナージ術を施行した。術後経過は良好で21日目に退院した。今回の手術は成因に対する根治術ではないため，潰瘍再発の可能性があり，抗潰瘍剤投与を含めた長期的な経過観察が重要であると思われた。

はじめに

近年，H₂受容体拮抗薬（以下H₂RAと略す）やプロトンポンプ阻害剤（以下PPIと略す）などの胃酸分泌抑制剤の開発が進み，消化性潰瘍の治療の中心は薬剤投与になって¹⁾，消化性潰瘍の待機的手術症例はほとんど見られなくなった。よって，吻合部潰瘍穿孔は臨床的に遭遇することが稀な疾患となってきている。今回，十二指腸潰

瘍穿孔に対する胃切除術後，30年目に発症した吻合部潰瘍穿孔の1例を経験したので，若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者：71歳，男性
 主訴：左側腹部痛
 既往歴：41歳時，十二指腸潰瘍穿孔にて当科で幽門側胃切除術が施行された。

現病歴：2012年4月，突然の左側腹部痛を主訴に救急外来を受診した。精査の結果，消化管穿孔による汎発性腹膜炎が疑われ緊急入院した。

Kiyoaki MIZUSAWA et al.

安来市立病院外科

連絡先：〒692-0404 安来市広瀬町広瀬1931

安来市立病院外科